

1. 平成26年10月～12月期の景気動向

DI平均値は前期(7～9月期)の△27.4ポイントから、13.2ポイント悪化し、△40.6ポイントとなった。全業種とも需要の停滞を当面の問題点にあげており、依然厳しい状況が続くと見られる。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 62 (△ 46) 	△ 46 (△ 54) 	△ 36 (△ 37) 	△ 37 (△ 26) 	△ 22 (△ 22) 	△ 56 (△ 11) 	△ 50 (△ 59) 	△ 44 (△ 41) 	△ 30 (0) 	△ 20 (△ 35)
採算		△ 54 (△ 54) 	△ 46 (△ 50) 	△ 38 (△ 30) 	△ 38 (△ 32) 	△ 22 (△ 11) 	△ 25 (△ 11) 	△ 49 (△ 55) 	△ 38 (△ 42) 	△ 42 (△ 35) 	△ 32 (△ 53)
資金繰り		△ 31 (△ 38) 	△ 38 (△ 31) 	△ 27 (△ 30) 	△ 25 (△ 22) 	△ 11 (0) 	△ 22 (△ 22) 	△ 48 (△ 35) 	△ 38 (△ 46) 	△ 25 (△ 27) 	△ 30 (△ 32)
業況		△ 62 (△ 46) 	△ 50 (△ 54) 	△ 36 (△ 21) 	△ 37 (△ 23) 	0 (0) 	△ 22 (11) 	△ 60 (△ 50) 	△ 32 (△ 42) 	△ 45 (△ 20) 	△ 37 (△ 35)
経営上の 当面する 問題点	1位	請負単価の低下		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		人件費以外の経費の増加	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
	3位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		需要の停滞		需要の停滞	
業種別 コメント		<p>今期売上高、業況が悪化し、来期の見通しもほぼ横ばいである。経営の問題点として、従業員の確保が難しいと答えている事業所が増えてきている。人手不足による受注機会の損失もあり、業界全体での人手不足が課題となりつつある。</p>		<p>今期状況、来期見通しとも悪化傾向である。また円安の影響から原材料価格が上昇しており、利益面でも厳しい状況が続いている。仕事の受注量は横ばいから微増であり、今後は生産の効率化、技術力の強化による利益率の更なる改善が必要である。</p>		<p>売上高DI値は前回と変わらず△22ポイントだが、来期の売上見通しは大幅に悪化となった。仕入単価の上昇を販売単価に転嫁できず採算が悪化しており、業況の回復を実感できない状況である。仕入商品の差別化により他社と比較されない製品を販売することで粗利益の確保が大事である。</p>		<p>今期の業況DI値は悪化傾向であるが、来期見通しについては回復の兆しが見られる。依然として購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化への対応が問題点としてあがっている。新規顧客の獲得を行うためにも、まずは来店してもらえきつかけ作りを行う必要がある。</p>		<p>来期は新年会、歓送迎会が見込まれ、若干ではあるがDI値全体に回復傾向が見られる。経営の問題点として、人件費以外の経費の増加、店舗施設の狭隘・老朽化といった問題が増えており、長い間の不景気により企業の資本力に陰りが見られる。</p>	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値